

今週の聖句

学者たちはその星を見て喜びにあふれた。

マタイによる福音書 2章10節

ねらい

イエス様の誕生を喜んだのはイスラエルの民ではなく、東方から来た占星術の学者であった。真の喜びを受けとめることができる心を整えるようにしたい。

最も貧しく小さな存在として顕現されたイエス様が真の王であった。わたしたちの周りで小さくされている者と共にイエス様がおられることを覚えたい。

占星術の学者たちは夢のお告げ通り、ヘロデの所に行かず、帰りました。人間の声と神さまの声、どちらに従うべきかは明白である。

説教作成のヒント

- ・ 東方から来た占星術の学者がヘロデ王に会った時、不安に思ったのは、ヘロデ王だけではなく、エルサレムの人々、皆でした。宿屋（客間）に居場所がなかったように、イエス様、救い主を受け入れる場所が人々の心になかったことを示しています。
- ・ しかし、人々の思いと神さまの思いは違い、たとえ、人々が望まなくても、最も必要な場所に救い主が与えられます。それはベツレヘムが最も小さくされた場所だったからです。
- ・ 東方の占星術の学者の旅は楽なものではありませんでした。何千キロという旅でしたが、彼らは神さまの導き、恵みを信じました。信じる者に神さまのみわざは明らかにされるのです。

豆知識

- ・ ベツレヘムは「パンの家」という意味。出エジプトや旧約聖書で、民はしばしば飢饉を経験している。その時に神さまの助けがあったのはこの町。人々が愛する町でもある。
- ・ 黄金はこの世界での富、乳香は礼拝を司る者の証し、没薬は薬であり、死んだ後の処理用の薬。三つには意味があり、イエス様の十字架はこの時から暗示されているのです。

説教

今日は顕現主日、公現主日と言う日です。顕現とは広く現される、はっきりと現わされるという意味で、神のみ子として生まれたイエス様が、公に異邦人に対しても救い主として現れたことを意味しています。すべての人にイエス様が与えられたこと、神さまがお送りくださったことを覚えるのがこの顕現主日です。

イエス様がお生まれになった後、羊飼いたちがイエス様に会いに来たことは聞いたことがあるでしょう。他にも来た人がいました。それは東の方からの占星術の学者たちでした。この人たちは救い主、王様がお生まれになったことを知って、その人に会いに来ました。新しい王様ですからどこに生まれたと思うのでしょうか。もちろん、王様の住む宮殿に生まれたと信じて、学者たちはヘロデ王の所に行って、聞きます。「新しい王様はどこですか？」と。もちろんヘロデ王は不安でした。自分以外の王様が生まれたら自分は王様ではなくなってしまうからです。でも、ヘロデ王だけではなく、イスラエルの人も本当は救い主なんか来なくていいと思っていました。苦労はあるけれども、ちょっとだけ楽しい今の生活のままがよかったのです。

学者たちは宮殿では救い主にお会い出来ず、また旅をします。どこに行ってもいいか分からない旅です。飛行機も電車もなく、らくだに乗っての旅です。エルサレムからベツレヘム、そしてナザレへは直線でも二〇〇キロ近い距離です。本当に困難な旅で、何度も帰ろうと思ったかもしれません。それでもどうしても救い主にお会いしたい。その思いだけが強かったのです。そんな思いをもった人を神さまは決して見捨てられません。星が先立って進み、ついに幼子のいる場所に止まったのです。不思議な出来事ですが、それが神さまのみわざです。学者たちはその星を見て、困難の中にあっても、また必要な時に導いてくださる神さまの導きと奇跡的な助けに喜びに溢れて、幼子に出会うことができました。そして、学者たちは黄金、乳香、没薬を献げます。彼らにとっては高価なものであり、手放したくないものであったと思います。しかし、彼らはそれを献げ、自分を飾っていたものを捨て去り、この救い主に、神さまに従って歩む生き方を選び取ったのです。彼らが贈り物を献げたということは裸の自分になるということだったのです。それほど救い主に会うことは喜びです。

小さな赤ちゃんのイエス様に王様としての姿を学者たちは見ました。お金持ちでも力持ちでもなく、神さまがお与えになったこの方こそ、平和の王様なのだ。神さまは一番小さい者と共にいてくださる方です。そして、世界中の人に今、救い主がお生まれになったことを教えてくれています。こうして、東方の学者たちのおかげで広く救い主の誕生は知らされました。最後に彼らは夢で聞いた神さまの言葉に従ってヘロデ王の所に帰りませんでした。最後まで神さまのことばに忠実だったのです。イエス・キリストの光が全世界へと輝かされていくために学者たちは用いられました。わたしたちも今、この喜びを伝える者です。神さまの言葉と導きに信頼して、毎日を歩いていきましょう。その時、必ず神さまは救いと導きの星をもってわたしたちを愛してくださいます。

分級への展開

さんびしよう

* 讃美歌は " こどもさんびか " (日キ版) より

2 1 番

改訂 7 8 番

やってみよう

1 番大切なものをイエス様にお捧げしよう

< 用意するもの >

色画用紙・白画用紙など

- ・ 3人の博士たちは、それぞれ1番大切なものをイエス様にプレゼントしました。みんなもイエス様へのプレゼントを考えてみましょう。(物でなく、心のこもったもの、自分たちにできることなど、考えてみましょう。)
- ・ 入手できれば、「クリスマスのおくりもの」コルネリス・ウィルクスハウス作 講談社を読んでみましょう。
- ・ 色画用紙をハート型に切ります。白画用紙は少し小さめにハート形を切ります。
- ・ 白画用紙にそれぞれのプレゼントをかきましょう。
- ・ 大きめの紙にみんなの書いたハートを貼ってもいいですね。

暗唱聖句

「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、
天から聞こえた。 マタイによる福音書 3章 17節

ねらい

イエス様の洗礼の箇所である。罪なき神の子が悔い改めの洗礼を受ける必要があるのか。だからヨハネは止めている。ここでは罪なきイエス様が罪あるわたしたちと同じ姿になってくださった、同じ場所から救いを語るために洗礼を受けられたことを覚えたい。

聖霊が与えられるのはイエス様にだけでなく、今日、洗礼を受けるわたしたちも同じである。水と霊によって洗礼を受けていることを忘れないようにしたい。

説教作成のヒント

- ・イエス様が洗礼を受けられたのは誕生されてから30年が経った後だった。ここには「イエスの神の子としての現れ」という降誕節のテーマが続いている。
- ・「天が裂け」というのは、神がこの世界に介入してくることを表す表現。
- ・「聖霊が鳩のように」は、「鳩」が翼をひろげて舞い降りるときのように、聖霊に覆われるイメージを表す表現。
- ・イエス様の洗礼の出来事は、イエスが神の子として現されたという面、と同時に、イエスが神の子としての使命を特別に自覚したという面の両面があると考えられる。

豆知識

- ・「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という言葉の背景には、イザヤ42章1節以下があるとされている。「見よ、わたしの僕(しもべ)、わたしが支える者を。わたしが選び、喜び迎える者を。彼の上にわたしの霊は置かれ、彼は国々の裁きを導き出す。」僕=愛する子

説教

聖書の言葉に「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」という言葉があります。貧しいということは幸いなことだと言われますが、本当でしょうか。ある教会でクリスマスの時にサンタクロースは元々は聖ニコラウスという人が貧しい人を助けるためにプレゼントを配ったことから始まったと聞いた一人の子どもが、「ぼくは貧しくない」と言って教会からのプレゼントを放り出したそうです。初めて来た教会で照れもあったのですが、自分は貧しくなんかない、そんなものとは無縁だという思いをわたしたちも持っていないでしょうか。貧しさや罪とは自分と関係のないものだと思いがちですが、そうではないのです。貧しさとはお金だけのことではなく、心の貧しさや思いやりの貧しさなど様々あって、自分では気づかないことも多くあるのです。聖ニコラウスが届けたプレゼントは憐れみということよりも貧しさの中にいる人に喜びを分かち合えない自分たちの心に気づいたからこそ、喜びを届けるようにしたのでしょう。クリスマスをお祝いしたけれど、世界中にはクリスマスでもお祝いをできない人もたくさんいます。その人たちのことを思いやることができたでしょうか。自分だけ楽しければという思いや他の人の大変さに気づかない心が心の貧しさであり、罪と言います。その罪、弱さを洗い流して、神さまの子どもとして歩み出していくのが洗礼です。

イエス様は神さまの子で、弱さや罪を持っていませんでしたが、ある時、洗礼者ヨハネから洗礼を受けようとヨルダン川にやってきました。ヨハネはビックリして止めさせようとした。自分こそ

イエス様から洗礼を受けなければいけないのに、イエス様に洗礼を受けるなんかできないと。でも、イエス様は言いました。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです」と。イエス様は洗礼を受けて、わたしたちと同じ姿になってくださったのです。弱さや罪の中に生きるわたしたちと同じところから福音を語ってくださいます。洗礼はイエス様と一緒に歩むことです。イエス様が洗礼を受けられたのはそういう意味があるのです。

そして、イエス様は洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられます。そのとき、天がイエス様に向かって開き、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になられます。そして、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえたのです。神さまの子どもである。神さまのみ心を受け継ぎ、歩んでいく者である。それが天からイエス様に注がれた声でした。けれども、この言葉はイエス様だけに語られることばではなく、わたしたち一人一人に語られていることばです。「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と神さまはあなたに言ってくれます。洗礼を受けたときにそのことばを受け、神さまの愛に満たされたわたしたちの生き方はどのような感じなのでしょう。人をだましたり、傷つける生き方ではなく、人を喜ばせる生き方をしましょう。神さまに愛される者として、そこに向かってわたしたちは歩みだしていきましょう。イエス様が神さまに愛される子どもとなったように洗礼はわたしたちも神さまに愛される子としてくれます。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

1 番

改訂 8 番

やってみよう

音の鳴る楽器を作って、ラップで讚美

<用意するもの>

ガチャガチャのケース(ガチャガチャコーナーでもらってくるとよい)

もしくは、ヤクルトのカップ、ペットボトルでも代用できます。

あずき豆、ビーズなど

ケースに豆を入れて、蓋をして、ビニールテープで止める。

ケースを自由にデコって、オリジナルにしても良いですね。

それでは、ラップのリズムで讚美しましょう。今日のみことば

「これは、わたしの愛する子、わたしの心に適う者。イエイ！」です。

| > | | | >>> |

これは わたしの あいする こ

| | | | イエイ |

わたしの ところに かなうも のイエイ

リズムに慣れてきたら、テンポを上げて、1人ずつ順番に歌って、ノリノリで体を動かしてみよう。

暗唱聖句

そのときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、 宣べ伝え始められた。 マタイによる福音書 4章17節

ねらい

イエス様の宣教開始である。重要なのはその場所である。ガリラヤはイエス様の故郷であるが、同時にユダヤ人からは軽視された場所だった。見捨てられた暗闇の支配する場所、しかし、その中でこそ神の救いの計画が実現し、イエス様と出会える場所になっている。わたしたちにとっても「ガリラヤ」と言える場所があるのであれば、ここでこそ、イエス様は働かれる。

天の国（神の国）は近づいたという言葉の「近づいた」はまだ来ていないことを示すのではなく、「近づいてもうここに来ている」ということを語っている。ヨハネとイエス様の宣教の違いはイエス様によって神の国は何らかの意味でもう始まっているところにある。

説教作成のヒント

- ・「ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退かれた」（12節）。ヨハネが洗礼活動をしていたのはヨルダン川の下流、ユダヤに近い地方だと考えられています。洗礼者ヨハネが捕らえられて、イエスご自身も身の危険を感じたのでしょうか、ヨハネの活動の限界を感じたのでしょうか、イエス様はご自分の故郷とも言えるガリラヤに戻ってきます。そして、これを契機にイエス様独自の活動が始まることになりました。ヨハネの働きを受け継いだのではないのです。
- ・光が輝くのは暗闇がある場所だけです。暗闇があつてこそ、光は輝くことができます。死の陰の地に住む者は死んだ者ではなく、死の淵、死んではないけど、それに近い人、闇の中にいる人を指します。その人たちの場所にこそ、光は射し込むのです。「命は人間を照らす光であった」と言われるように、今、イエス様は光としての活動を開始されました。

豆知識

- ・今日の福音でマタイが引用しているイザヤ8章23節～9章1節は、「主の降誕」の日課でも読まれた旧約聖書の箇所。
- ・「ゼブルンとナフタリ」は、エジプトを脱出したイスラエルの民が約束の地に入ったとき、ガリラヤ地方を割り当てられた部族の名

説教

児童文学作家の松谷みよ子さんが書かれたモモちゃんとかアカネちゃんのシリーズの中に妹のアカネちゃんが産まれる直前の話にこんな物語があります。ママが慌てて階段を下りている時に、足を滑らせて下に滑り落ちてしまうのです。落ちながらママは「大変、ああ、赤ちゃんがあぶない」と考えながら気絶をしてしまいます。その後、ママはなまりいろの雲がたれこめているはらっぱをとぼとぼと歩いていきます。はらっぱは冬で空も野原もなまりいろで冷たい風が吹きすぎていくのです。ママはためいきをつき、重い足どりで歩いていきました。暗いわ、それに寂しいわ、何もかも死に絶えてしまったように、もの音一つしない...赤ちゃんは死んだのかしら。階段から落ちた時、死んだのかしら。そう死んだんだわ。だってこんなに暗いもの。ママはたよりなく立っていました。その時、雲のさけめから一筋の光が、さあっと野原に落ちてきました。するとその光できらっとひかったものがあったのです。ママは「何かしら」とつぶやき、そのそばに近づきました。それはあかね色ののぼらの実だったのです。それを見たママの目から涙があふれました。 - この小さな実の中に、命があるので

すね。だからこんなに、燃えるように赤く、かがやいているのですね。 - ママはその実のそばに手をたらしながら立っていました。命があるのですね。命があるのですねとつぶやきながら。ママは命の輝きを見て、涙しました。そして、その二日後にアカネちゃんは産まれたのです。

イエス様はガリラヤというところで、宣教を始められます。どうしてそこで始めたのでしょうか。イエス様の故郷だったのでしょうか。そうではありません。ガリラヤは預言者イザヤが言っているように「暗闇」であり、「死の陰の地」とされていたところです。暗闇とは光が届かない所、死の陰の地とは生きている者が歩む場所ではない所、死者の居るところ、希望のない所のことです。つまり、神さまの救いが訪れないところだとガリラヤは思われていたのです。ガリラヤは救いから外された者たちが集まる所と考えられていたのです。希望から一番遠いところからイエス様はみことばを宣べ伝えます。そして、わたしたちには心のガリラヤがないでしょうか。一人一人の心の中にある「暗闇」や悩み、悲しみ、また神さまのこぼを受け入れない思いのことなのでしょう。そこにイエス様は来てくださるのです。ガリラヤから伝道を始められる。それは一人一人にイエス様が来てくださる、イエス様が希望の光が照らされるという力づよいメッセージなのでしょう。

ヨハネによる福音書に「命は人間を照らす光であった」という言葉があります。クリスマスに誕生されたイエス様はわたしたちを照らしてくださる光です。暗くて怖かったり、何も見えないのであれば、ちゃんと光として照らして下さり、わたしたちを安心させてくださいます。イエス様の命は光そのもの、温かさそのものです。

「天の国（神の国）は近づいた」と最後にイエス様は言われます。それは近づいて来ているということではなく、もうここにあって実現しているという意味です。主の祈りで「み国が来ますように」と祈りますが、イエス様によって神の国はもう始まっているのです。寂しいとき、暗闇にいるように感じる時、イエス様はあなたのそばで光として照らし、暖めてくれています。

分級への展開

さんびしよう

* 讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

36番

改訂120番

やってみよう

みことばの書き初めをしよう

<用意するもの>

細筆・墨汁・半紙（半分は切って、細長にして使います。）・黒画用紙・新聞紙・
すずり・ぞうきん

みなさんは、書き初めをしましたか？新しい1年の目標は、何ですか？

今日から、イエス様は神さまの事を伝えはじめられました。このはじまりの時、
「悔い改めよ。天の国は近づいた。」という言葉ではじめられましたね。

このイエス様の宣教のはじまりの言葉を書き初めしてみましょう。

書けたら、良く乾かして黒画用紙に貼りましょう。

暗唱聖句

イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。 マタイによる福音書 4章 19節
--

ねらい

イエス様が宣教のはじめにされたことは弟子を選ぶということでした。この「イエス様が弟子を選ばれる」ということは、神の選びの根拠は人間の側がない、ということを示します。

そして、弟子を従えて、イエス様の働きが開始されますが、23-24節に働きの本質が語られます。

「教え、宣べ伝え、いやされる」それがイエス様の働きであり、弟子たちの働きです。しかもそれを待っていて行うのではなく、「ガリラヤ中を回って」という、「行って」が大切です。

説教作成のヒント

- ・「わたしについて来なさい」は「わたしの後に」という意味のことばが使われている。一方「従う」というギリシア語は、ただ「後を歩む」だけでなく「同行する、仲間になる」という意味もある。
- ・漁師を選んだのは彼らが「無学な普通の人」(使徒言行録 4章 13節)だったから。神さまの選びには人間的な才能や能力などは全く関係ないのである。
- ・会堂はイスラエルの各町にある集会所。当時、すべての町に聖書の解説を行えるような律法の先生がいたわけではなく、こういう先生は町から町へと旅をして教える慣習があった。律法の先生が来た、という知らせは町の中にすぐに伝わり、人々は安息日に話を聞くのを楽しみにしていた。
- ・英語の聖書では癒した病気を「disease and illness」と書いている。辞書には「illness」は通例あまり重くない病気、「disease」は「illness」よりは具体的な病気で病名のはっきりしたもの、伝染病または医学研究・治療の対象となるもの、とあるので「重い病気も軽い病気も」と訳すことができる。

豆知識

- ・イエス様が最初にしたことは弟子を作るということでした。これもマタイ福音書の結びと対応しているようです。復活したイエスの弟子たちへの命令の中心は「すべての民をわたしの弟子にしなさい…」(28章 19節)というものでした。
- ・「ガリラヤ」「デカポリス」(異国でガリラヤ地方の東南に位置)「ユダヤ全土」「ヨルダン川の東」という四つの地名を記すことで、国境を越えて、噂が拡がり、集まったことを記す。

説教

イエス様は伝道を開始されて、すぐにガリラヤ湖というところにやってきました。するとそこで、しょぼんとしながら、網を洗って引き上げる準備をしている、肩を落とし、早く家に帰りたい漁師たちに出会いました。一日中働いても何も獲れなかったのです。ペトロと呼ばれるシモンと兄弟のアンデレでした。イエス様は「わたしについて来なさい」と言われました。ついて来なさいと言われるからには何かしてくれるのです。それは「人間をとる漁師にする」ということ、イエス様の弟子にするということでした。今まで魚を捕って殺していた漁師たちは今度は人間を生かす漁師、人間をとる漁師になっていくのです。その違いを聖書は「とる」とひらがなで表現しているんですね。そのすぐ後には同じように漁師であるヤコブとその兄弟ヨハネもお呼びになりました。この二人もすぐに弟子になりました。イエス様はどうして漁師を弟子にしたのでしょうか。漁師は獲った魚の数だけ数えられればいので、学校に行く必要もありませんでした。勉強もできないし、特別な存在ではありません。

その辺にいる普通の人です。普通の師弟関係なら、弟子のほうが「これぞ」と思う先生に弟子入りを願うものです。しかし福音書の中では、先生であるイエスが弟子を選ぶのです。それは神さまの選びの根拠は人間の側にはないのです。神さまが人間を選ぶというのは、選ばれた人間が優れているからではなく、神さまの選びとは、最も弱く、貧しい人を選ぶことによって、すべての人を救おうとすることにあるのです。だから今、漁師たちが選ばれたのです。同じように小さいわたしが選ばれます。

イエス様の招きの言葉を聞き、四人はあれこれ悩んだでしょうか。きっとそうではなく、すぐにイエス様に従っていったのです。神さまの召しに応える。それは単純さが大切なのです。ただ単純にイエス様の呼びかけに応じて、ついて行くこと、そして、イエス様の言葉を素直に受け入れることが大切なのです。神さまを信じる、必ず道を開いてくださるという確信、単純な信頼が大切なのです。

こうして、イエス様の働きは始まりました。人間をとる漁師の働きは「教え、宣べ伝え、いやす」ことでした。どれかひとつだけをイエス様はされたのではなく、全部をされたのです。だから一人ではきっとできなかったのです。ガリラヤ中を回られました。わたしたちもイエス様の弟子になって同じようにイエス様がされていた働きを受け継いでいきたいものです。その時に大事なものは声をかけられたら「何も持っていないからできません」というのではなく、「はい」と言うこと、そして、自分が優れているからとは思わず、神さまに助けられながら歩むことです。

イエス様の所には様々な所から福音を聞きに、また助けてもらったり、病気を治してもらいに、多くの方が来ました。今も同じようにイエス様の働きを待っている方がおられます。その方の所に行かれるイエス様に「ついて行く」それが弟子として生きる道なのです。

分級への展開

さんびしよう

* 讃美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

67番

改訂53番

やってみよう

お弟子さんカードを作って、神経衰弱に挑戦しよう

<用意するもの>

裏移りしない厚手の紙をトランプ程の大きさに切っておく(50枚くらい)・

マジックペンや色鉛筆など

お弟子の名前を2枚ずつ書く。もしくは、1枚に名前もう1枚に顔でもOK!

次にメンバーの名前も2枚ずつ書く。もしくは、1枚に名前もう1枚に顔でもOK!

(教会の人の名前で作っても良いですね)

残ったカードに、魚の名前を2枚ずつ書く。1枚に名前、もう1枚に絵でもOK!

できたら、みんなで神経衰弱をしよう。

ただし、メンバーのカードは3点、お弟子カードは2点、魚カードは1点で計算します。ルールは自由に変えてみてください。

しっかりした紙で作ると、何度も使えます。

暗唱聖句

あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。

マタイによる福音書 5章 16節

ねらい

「山上の説教」の中で、冒頭の「八つの幸い」に続いて語られることばです。イエス様はガリラヤの丘の上で、群集と弟子たちに向けてこれらのことばを語られました。もちろん特定の弟子だけでなく、「いろいろな病気や苦しみに悩む者」であった群集もこのことばを聞いていたのです。それゆえ、すべての人が「地の塩である」「世の光である」と断言されるのです。

山上の説教にはたくさんの命令があります。その中には非常に厳しく、人間には実行困難と感じられるようなものも少なくありません。だからこそ、そのすべてに先立って「福音」があることは大切です。「神はあなたを地の塩、世の光と見ていてくださる。だから～」。その後どのような生き方をするのかが問われてきます。

「おまえはダメだ」「おまえなんかいてもいなくてもいい」「おまえがどうなるうが関係ない」そういうメッセージが、わたしたちの社会の中で、職場や学校で、もしかしたら夫婦や親子の間でさえ飛び交っている現実があります。その人間の愚かな目に対してイエス様は「神さまから見れば、無条件に、あなたがたの一人一人がかけがえのない大切な塩であり、すばらしい光なのだ」とはっきりと言われます。かけがえのない存在であることを伝えたいと思います。

説教作成のヒント

- ・塩は食べ物に味付けをするだけでなく、腐敗を防ぐ大切なものと受け取るものです。その塩が塩気がなくなることはありません。13節のイエス様のことばは、「塩が塩味を失うことはないはずだ」ということを強調しています。
- ・光と言われますが、わたしが光るのではなく、イエス様が輝き、わたしはそれを反射する者に過ぎません。イエス様が太陽であり、わたしは月。それがキリスト者の生き方です。

豆知識

- ・16節の「立派な」は、直訳では単に「良い」（「美しい、役に立つ」という意味）です。あがめられるは直訳では「栄光を与えられる」です。神さまが褒め称えられることが私たちの喜びです。

説教

今日はイエス様が突然こんなことを言いました。「あなたがたは地の塩である。」「あなたがたは世の光である」と。塩は食べ物に味付けをするためのものです。他には食べ物が腐らない様にもしてくれます。お漬物などがそうですね。でも、お料理をする時に気をつけなくてはならないのは塩を入れすぎると美味しい料理ができません。とっても塩辛くて食べられないものになってしまいます。「あなたがたは地の塩となりなさい」とイエス様は言われるのではないので、今、わたしたちは地の塩です。みんな違う味をもっています。でも、それが全部あわさったらどうなるでしょうか。ものすごい味になってきっと食べられません。だから、大事なことは、塩がその姿を失って、とけ込んで、その味を発揮していくように、わたしたちは自分をそのまま用いて味付けしていくのではなく、隣り人と共に生きる、仕えることは自分を溶かしていくことにあるのです。溶け合った塩が交ざり合うように姿は見えなくても他人のために働くことが地の塩の役目なのです。

また、イエス様は「あなたがたは世の光」と言われます。ここでも「あなたがたは世の光になりな

さい」とは言われません。もう光としてわたしたちは歩んでいるのです。でも、イエス様の言われる光は、わたしたちが輝くのはこの電球のようなものとは違います。皆さんはお月様が輝いているのを見たことがあると思います。夜には闇夜に光を与えてくれます。でも、お月様は電球のように、自分で光っているのではないのです。太陽が光って、その光を反射しているだけです。鏡に光を当てると遠くにその光を届けられるのと同じです。だから、わたしたちも自分が光り輝くのではなく、イエス様ご自身が光っておられるのを反射するものに過ぎません。反射するにはちゃんと綺麗になっていないとできません。だから、イエス様は自分自身を整えて光を人々の前に輝かしなさいと言われます。そして、光は明るさだけではなく、温かさもくれます。目の見えない人にも温かさというプレゼントをわたしたちはできるのです。

わたしたちは自分が地の塩だろうか、世の光だろうかと悩むことがあるかもしれません。良いところもあり、欠点も失敗もあるからです。でも、そのあなたがかけがえのない地の塩であり、世の光だとイエス様は言われるのです。神さまから見れば、無条件に、あなたがた一人一人がかけがえのない大切な塩であり、素晴らしい光なのだとして、おっしゃってくださっていることに感謝しましょう。

分級への展開

さんびしよう

* 讃美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

129番

改訂106番

やってみよう

キャンドルを作ろう

<用意するもの>

古いろうそく(牧師先生に聞いてみてね)・おなべ(100均にもあるよ)・紙コップ

古いクレヨン(色付け用)・おたま・わりばし・セロテープ・ハサミ・カッター

紙コップに好きな色のクレヨンを削って入れます。(紙コップ1つにつき1色)

古いろうそくを鍋に入れて、温め、溶けてきたらひも(ろうそくの芯)を取りだす。

わりばしの中央に、さっき取り出したひもを挟む。(タコ糸を使っても良いです)

とは別の紙コップの中央にひもを付けたわりばしを置き、固定するためにセロテープで軽く止める。(このひもがろうそくの芯になるので、なるべく真ん中にくるようにします)

芯をきっちり真ん中にしたい場合は、紙コップの底に穴を開けて、ひもを通しセロテープで止めておくとういことです。また、紙コップに切り込みを入れて、わりばしを固定することもできます。

クレヨンを削った紙コップに、ロウを流し込み色を付け、わりばしを付けた紙コップに入れます。(少し固まってきたら、違う色のロウを入れるとカラフルになります。)

ロウが固まったらできあがり。冷蔵庫に入れると速く固まります。

仕上げにアロマオイル(100均)を2,3滴たらずと良い香りのアロマキャンドルになります。